

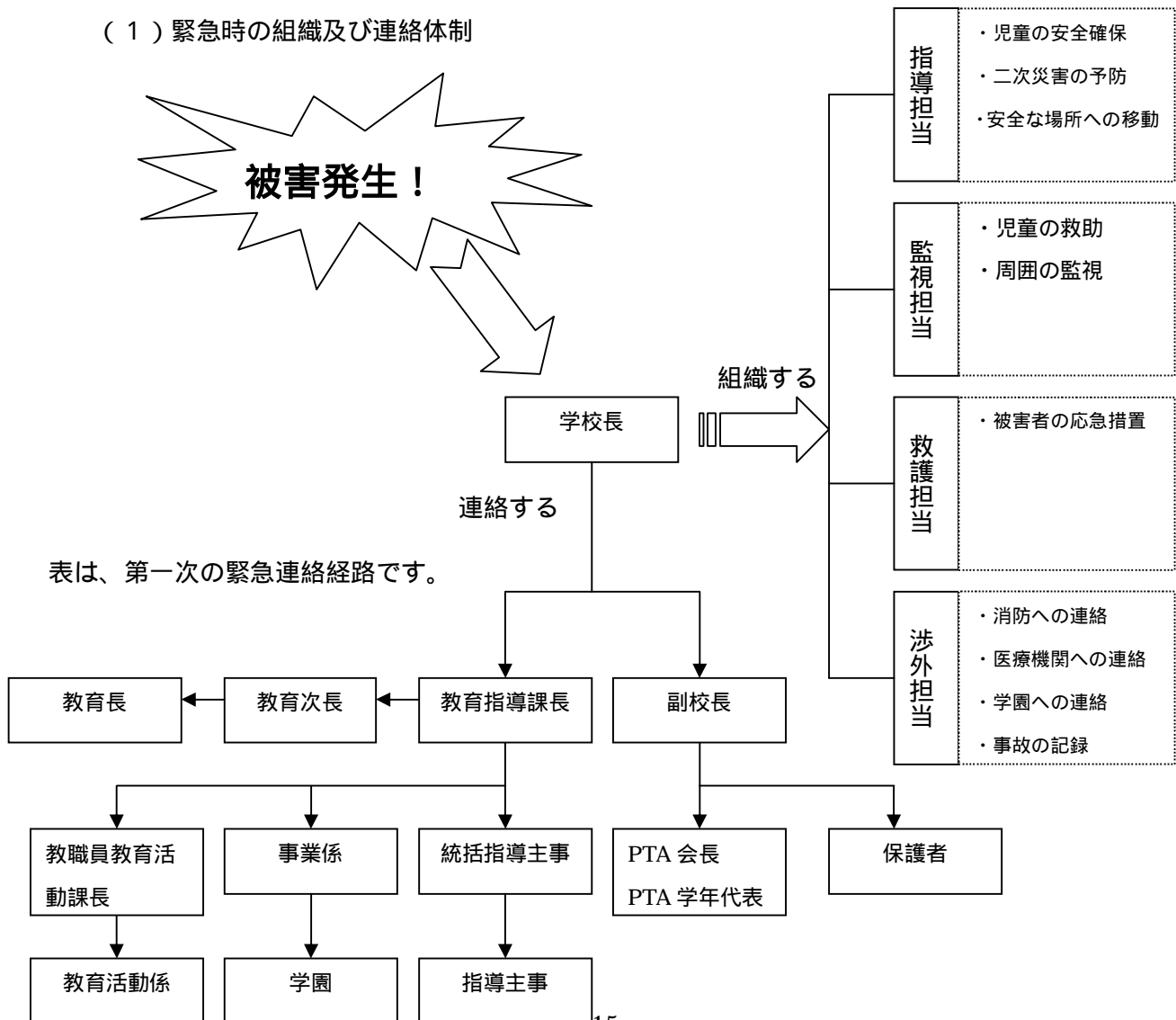
万が一事故が発生した場合の対応

1 緊急時の体制について

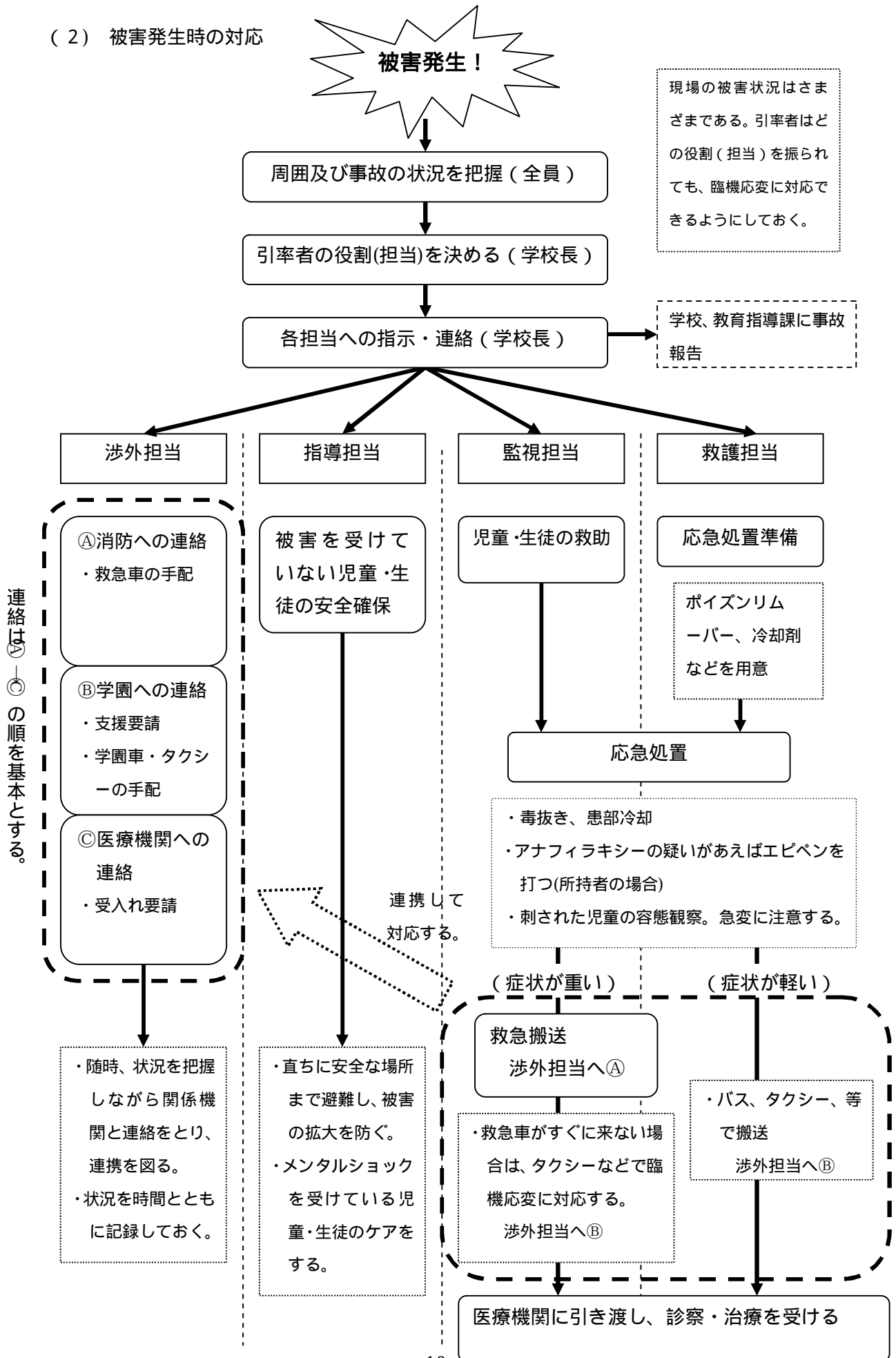
自然宿泊体験教室は、野山や海などの自然の中を活動場所としているため、どんなに注意をしてもハチに刺される等の被害が発生する可能性があります。被害が発生した場合は、被害児童・生徒の安全確保を最優先とし、程度の大小に関係なく、直ちに管理職に報告・連絡・相談するとともに、教育委員会へも事故報告を行い対応することが重要です。

緊急時にも冷静かつ迅速に行動するために、あらかじめ指導、監視、救護、渉外などの役割を決めておき、引率者が連携して事態に対処できる体制を作ることが必要です。その場合、引率者は現場においてどの役割を与られても、臨機応変に対応できるよう心がけてください。そのためにも、児童・生徒及び引率者（教員・指導員・介助員）の人数、活動内容に応じて、実効的な組織を構築することが重要です。

(1) 緊急時の組織及び連絡体制



(2) 被害発生時の対応



2 緊急連絡について

(1) 事故の一報

事故の一報は、関係機関（病院や教育委員会）や保護者にできるだけ迅速且つ正確に伝えることが重要です。事故の発生場所・日時・人数・氏名・性別・年齢・学校名・けがの程度・処置の内容・現在の状況などについて落ち着いて報告します。

例) 「緊急連絡、緊急連絡です。こちらは目黒区立 小学校の(職名)(氏名)です。
児童がハイキング中にハチに刺されました。発生場所は です。
被害児童は 名で、アナフィラキシー症状が出ています。
で待機していますので、至急救急車をお願いします。
私の携帯電話番号は090-×××です。よろしくお願いします。」

また、児童・生徒が負傷した場合には、保護者に対して誠意をもった対応が必要となります。自然宿泊体験教室は、参加者の自宅と離れた場所で実施しておりますので、保護者の不安を考えできるだけ速く正確な情報を伝えます。場合によっては児童・生徒と保護者を直接電話で話をさせるなどの配慮が必要です。

(2) 情報収集・発信について

事故がハイキング中などで起こったときには、管理職が事故現場から離れている場合があります。下記の点に留意し、情報集約・発信を行います。

情報の収集

事故発生時の発生場所・日時・人数・氏名・性別・年齢・学校名・けがの程度・などを正確に把握する。

情報の一元化

管理職は、情報集約・発信については、担当者を決め一元化を図る。

情報の発信

情報を発信する場合には、誤解をまねかないよう、冷静に正確な表現に努める。

事故の記録

集約した情報は、時系列順を紙などで記録する。

【事故の記録（例）】

事業名	小学校 年生自然宿泊体験教室			
発生日時・天候	月 日 時 分 晴	発生場所	件 市 公園内	
事故状況	役所 太郎 男 八チ刺され3箇所		目黒 花子 女 八チ刺され2箇所	
事故の概要	<p>ハイキング中に、林道を歩いていた役所太郎がよろけて茂みに足を踏み入れたところ、地バチと思われる八チに襲われ3箇所刺される。また、役所太郎の隣を歩いていた目黒花子も2箇所刺された。</p> <p>刺された児童の状況 (役所太郎)左ふとももに2箇所、右手中指第2関節に1箇所、計3箇所。 (目黒花子)右腕上腕に1箇所、左肩に1箇所、計2箇所。</p>			
事 故 経 過				
日 時	状況・対応など			
月 日 時 分	事故発生			
時 分	引率養護教員が応急処置、軽度であるが念のため病院へ搬送。			
時 分	現地責任者より本部へ連絡。保護者への対応を協議			
時 分	現地責任者へ本部より保護者への報告を要請。			

安全対策を十分にとっても、事故やけがが発生することがあります。緊急時に備えて緊急連絡先一覧を作成し、安全管理に努めましょう。裏面に必要な連絡先を記載しております、適時追加して使用ください。（コピーをして複数人で共有することが望ましい）

連絡先	電話番号	備考
消防・救急	119	
警察	110	
教育委員会教育指導課	03 - 5722 - 9310	
八ヶ岳林間学園	0551 - 48 - 2031	

安全対策を十分にとっても、事故やけがが発生することがあります。緊急時に備えて緊急連絡先一覧を作成し、安全管理に努めましょう。裏面に必要な連絡先を記載しております、適時追加して使用ください。(コピーをして複数人で共有することが望ましい)

連絡先	電話番号	備考
消防・救急	119	
警察	110	
教育委員会教育指導課	03-5722-9310	
興津自然学園	0470-76-3111	

3 保護者への連絡について

(1) 事故の一報

事故の一報は、学校だけではなく当該児童・生徒の保護者にも早い段階で、事故発生の日時と状況、対処の内容、ケガの程度、今後の対応など、その時点で把握している正確な情報を伝えることが重要です。

保護者によっては、情報の受けとめ方も様々であり、突然の連絡に不安となってしまうとすぐに行動を起こそうと考える場合もあるので、保護者への次の連絡は何時にどのようなようにするか伝えることによって安心感を与えることになります。保護者への連絡を誰が行うのかについては、引率者で事前に確認しておいてください。

(2) 本人と保護者の直接の会話

担任等の引率者からの連絡より、児童・生徒と直接会話し、元気な声を聞くことの方が保護者の安心感が増すこととなります。当該の児童・生徒が会話できる状態であれば、必ず保護者と会話をさせるようにしましょう。

(3) 当該学年の保護者への連絡

被害の状況や対応等については、参加した児童・生徒を通して、当該児童・生徒の保護者に伝えることが考えられます。そのため、当該児童・生徒の保護者の了解を得ながら、個人情報に配慮しつつ、被害の状況と対応、今後の対策等を早い段階で知らせた方が誤解を招かずに良い場合もあります。

緊急性が高い場合には、子ども見守りメールの活用も考えられますが、帰校時に保護者あて通知を参加児童・生徒に持参させることも考えられます。

特に、被害等により活動予定を変更した場合は、当該児童・生徒の保護者への情報提供は不可欠です。

(4) 他の学年の保護者等への情報提供

被害の状況や子どもの対応については、当該児童・生徒や保護者を通じて、他学年の児童・生徒及びその保護者に伝わります。

これから自然宿泊体験教室を迎える学年の保護者は、自身のお子さんも同様の状況が発生したらと考え、不安になることが多いものです。

不安を招く恐れがある場合や当該児童・生徒が不利益をこうむることが考えられる場合には、他の学年の保護者への情報提供を速やかに言ったほうが良いともいえます。その際、学校だよりや子ども見守りメール、ホームページ等と、被害の状況等から総合的に判断して活用することが考えられます。

ハチ刺され対応のポイント

[事前準備の際のポイント]

- ・ 実地踏査の際に、ハチに刺されやすい場所か、事前に情報を得ておくこと。
- ・ 黒い服を着ているとき、匂いが強いもの（香水、化粧品、整髪料など）を身に付けているときに刺されることが多いので、服装と匂いに注意すること。
長袖，長ズボン，帽子を着用すること。
服や帽子の色は，白や明るい色であること。
- ・ 虫さされの薬（副腎皮膚ホルモン含有の抗ヒスタミン軟膏）を携行すること。
アンモニアは効果なし
- ・ 児童・生徒や先生には，ハチの巣を見ても近付かないこと，ハチを攻撃しないこと，山道から外れないこと，下記「ハチに刺された場合の対処方法の主なポイント」を伝えておきましょう。
- ・ アドレナリン（エピネフリン）投与の可能な病院（ハチ毒への対応が出来る医師）を確認しておきましょう。 19・20 ページ参照
- ・ エピペンを持参している児童・生徒を必ず把握しておくこと。

[当日の予防方法の主なポイント]

- ・ 児童・生徒がハチの巣を見付けても近付かせないこと。
- ・ 児童・生徒には，飛んでいるハチを攻撃させないこと。
- ・ 児童・生徒が，山道から外れないように注意すること。

[ハチに刺された場合の対処方法のポイント]

- ・ すぐにその場から逃げる（スズメバチが追いかけてくる距離は通常，巣から10～50mといわれている）。その際，頭を隠して（帽子無し 頭＝黒色），低い姿勢を取り，暴れないで静かにその場を離れるのが良いといわれています。
- ・ 万が一刺されたら傷口を水でよく洗い流し，手で毒液を絞り出す（口では吸わないこと）。
- ・ 虫さされの薬（副腎皮膚ホルモン含有の抗ヒスタミン軟膏）を塗る（アンモニアは効果なし）。
- ・ 同時並行して，至急救急車を呼び，すぐに治療を受ける。

エピペンは、アドレナリン（エピネフリン）の注射剤を意味し、ハチ毒、食物及び薬物等によるアレルギーを治す薬剤ではなく、アナフィラキシーの症状を緩和するために、自己注射する補助治療剤です。エピペンには、アナフィラキシー発現時の治療に用いられるアドレナリン(エピネフリン)の薬液と注射針が内蔵されています。

4 事故報告書の作成について

発生直後からの記録については、時間、児童・生徒や教員の位置、指示した内容、児童の様子、保護者への連絡内容、怪我の状況やその後の対応等について、できるだけ詳細に記入すること。（これらの記録をもとに、今後の再発防止に向けた取組を決定する）
事故報告書の様式に従って留意点について説明する。

事故発生状況報告

1	種類	管理内	管理外				
		校内での事故	校外での事故	交通事故	問題行動	その他	
2	日時	平成 年 月 日 () 午前・午後 時 分頃発生 天候 ()					
		登校中	開始前	授業中	休憩時間中	給食指導中	放課後
		下校中					
		下校後	校外行事実施中	その他 ()			
3	事故当事者	ふりがな		学年 組	性別	保護者名	
		幼児・児童・生徒名		担任名			
				男 女			
4	事故関係者			男 女			
				男 女			
				男 女			
5	場所	(事故発生場所を記入する) 事故現場、幼児・児童・生徒関係図等があれば添付すること					
6	発生状況	(月)日・時間	内 容				
			(発端、原因となること)				
			(事故発生時の状況)				

管理職による状況把握について（時系列で記入）

- ・当事者の児童・生徒及び教職員の他、事案を目撃した周囲の教職員等へ具体的な状況を聞き取る。
- ・児童・生徒への聞き取りは、担任が中心に行うが、児童・生徒の心理面に最大限配慮して、養護教諭や学年主任、スクールカウンセラー等が行うようにする。
- ・一緒に指導に当たっていた教職員や外部指導員から、管理職が事実を聞き取る。

7	学校の対応	<p>(1) 事故当事者に対する学校の初期対応 (管理職・教育委員会への連絡を含む)</p> <p>管理職から教育委員会への連絡 (一報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発生の経緯、怪我の程度から対応処置にいたるまで、時系列に具体的に報告する。 ・ 保護者への連絡方法、迎えの有無、今後の予定についても報告する。 ・ 被害が拡大しないために、安全な場所へ避難した経路、場所 <p>(2) 事故当事者、保護者、関係者等に対する措置・指導等</p> <p>保護者への連絡について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者への報告内容、搬送した医療機関名、迎えの有無について確認した内容 ・ 二回目以降の継続的な対応として、学校から行った内容 <p>医療機関への連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急連絡した医療機関名、救急車等が到着・出発した時刻 <p>(3) 再発防止に向けた学校の措置</p> <p>指導体制の整備・再発防止・未然防止の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事故を受けて、校内で原因分析・課題整理を行い、再発防止・未然防止に向けた学校の具体的取組内容 ・ 事前の事故防止に関する取組も合わせて記載する。 																		
8	けが等の部位及び程度	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="319 1039 454 1122">部位 (骨折)</td> <td data-bbox="462 1039 598 1122">ひび</td> <td data-bbox="606 1039 742 1122">打撲</td> <td data-bbox="750 1039 885 1122">捻挫</td> <td data-bbox="893 1039 1029 1122">裂傷</td> <td data-bbox="1037 1039 1173 1122">その他</td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 1128 454 1211">医師の診断</td> <td data-bbox="462 1128 598 1211">あり</td> <td data-bbox="606 1128 742 1211">なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td data-bbox="319 1218 454 1301">病院等名 (入院等)</td> <td data-bbox="462 1218 598 1301">あり</td> <td data-bbox="606 1218 742 1301">なし</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>けがの有無の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 被害にあった児童・生徒名、けがの有無、程度等 <p>全治 約 () 日・月)</p> <p>心身に傷を負った児童・生徒の様子と、学校が対応した内容</p> <p>臨時保護者会の開催</p> <p>事実を、迅速に、正確に、誠意をもって説明することは、学校の信頼を取り戻す第一歩になります。管理職だけの対応ではなく、学校全体で意識を高くもち、対応していきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該保護者への説明と謝罪内容、保護者会で報告した内容、今後の取組について説明した内容 ・ 保護者会出席者数、対応した教職員数等 ・ 保護者会での管理職等からの説明内容、質問と返答 	部位 (骨折)	ひび	打撲	捻挫	裂傷	その他	医師の診断	あり	なし				病院等名 (入院等)	あり	なし			
部位 (骨折)	ひび	打撲	捻挫	裂傷	その他															
医師の診断	あり	なし																		
病院等名 (入院等)	あり	なし																		
9	その他の対応	<p>臨時保護者会の開催</p> <p>事実を、迅速に、正確に、誠意をもって説明することは、学校の信頼を取り戻す第一歩になります。管理職だけの対応ではなく、学校全体で意識を高くもち、対応していきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該保護者への説明と謝罪内容、保護者会で報告した内容、今後の取組について説明した内容 ・ 保護者会出席者数、対応した教職員数等 ・ 保護者会での管理職等からの説明内容、質問と返答 																		
10	その他	<p>事故現場、幼児・児童・生徒関係図等以外の添付書類 (保護者向けの注意喚起文、保護者会通知等)</p> <p>() 有 無</p>																		